

令和 7 年度

「運営に関する計画」

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

大阪市立東井高野小学校

令和 7 年 1 0 月

大阪市立東井高野小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

○本校の教育目標「豊かな心を育み、自らの能力を伸ばすたくましい子どもを育てる。」を達成する前提として、学校が児童にとって「楽しい」と感じることができる場である必要がある。しかし毎年、8%程度の児童が「楽しい」と感じておらず、今日的課題であるいじめや不登校問題とも密接に関係していると考えられる。家庭や関係諸機関との連携も含め、学校全体の課題として取組をすすめる必要がある。

○規範意識や自己有用感の醸成、他者の尊重や将来を見据えた自己イメージの獲得のためには欠点も含めて「自分のことが好き」という自己肯定感が前提条件となる。約15%の児童が自己肯定感をもてずに学校生活を送っていることは課題であり、豊かな体験を通して一人ひとりの良さを伸ばす取組をする必要がある。

○大阪市小学校学力経年調査の結果の標準化得点では95～105ポイントの中で推移し、また、全国学力・学習状況調査でも全国平均とは開きがあり、学習内容の定着、基礎・基本の定着に課題があることがわかる。家庭とも連携して自主学習の確立や読書活動を充実していく必要がある。また、各種学力調査においても無回答率が高く、学習に対して無関心や自分ごととして取り組めていない児童が少なくない。そこで、学習への参加感を伴った「わかる」授業を積み重ねることで、学習に対しての意欲や関心を高めることが大切であると考ええる。

○全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、体力合計点では男女とも全国平均を上回っている。これまでの体育科学習の積み重ねの成果と考えられる。また、広い運動場や一部の芝生化など、これらを活用して日頃から遊び・運動に親しむ機会が多いことと、地域での活動が功を奏している。一方で運動が好きな児童とそうでない児童の二極化もみられ、それらが課題として考えられる。

○教育活動にICT機器を導入し授業や学校活動に活用してきた。さらに一人一台端末を学習や生活指導に積極的に使用している。しかし、ICT機器と一人一台端末を連携しての有効的な活用方法や使用方法、情報モラルなどに課題があり、今後は、より良い活用を構築することが必要である。

○学校が日常の取組を着実に推進する中で、教職員が子どもたちの前で健康で生き生きと働くことができ、子どもたち一人ひとりに向き合う時間の確保が課題である。そのためには教職員の長時間勤務の解消をはじめ、学校業務の精選をはじめとした「働く範囲」の明確化と、教職員が「働きがい」を感じられる取組をすすめる必要がある。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 大阪市小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しい」に対して肯定的に回答する児童の割合 100%をめざす。
- 令和 7 年度の大阪市小学校学力経年調査における「自分には良いところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度(昨年度同調査 87.3%)以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 校内調査における「授業の内容はよく分かりますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合割合 100%をめざす。
- 令和 7 年度の大阪市小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を前年度(昨年度同調査 59.6%)以上にする。
- 令和 7 年度の大阪市小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を前年度(昨年度同調査 73.9%)以上にする。
- 令和 7 年度末の校内調査における「正しく手洗いをしている」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度(昨年度同調査 98.5%)水準を維持する。
- 令和 7 年度末の校内調査における「いつもハンカチを身につけている」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度(昨年度同調査 95.5%)水準を維持する。
- 校内調査における「給食の月目標を守ることができましたか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度(昨年度同調査 96.9%)水準を維持する。

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 72%以上にする。
- 「ゆとりの日」を週 1 回以上設定する。年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 80%以上にする。学校閉庁日については、夏季・冬季休業中に 3 日以上設定する。
- 令和 7 年度の大阪市小学校学力経年調査における「学校図書館やその蔵書を活用した授業を計画的に行いましたか」に対して、「週に 1 回程度、または、それ以上行った」又は「月に数回程度行った」と回答する学級担任の割合を前年度(昨年度同調査 100%)水準を維持する。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

- 大阪市小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しい」に対して肯定的に回答する児童の割合 100%をめざす。
- 大阪市小学校学力経年調査における「自分には良いところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度(昨年度同調査 87.3%)以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 校内調査における「授業の内容はよく分かりますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合 100%をめざす。
- 大阪市小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を前年度(昨年度同調査 59.6%)以上にする。
- 大阪市小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を前年度(昨年度同調査 73.9%)以上にする。
- 校内調査における「正しく手洗いをしている」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度(昨年度同調査 98.5%)水準を維持する。
- 校内調査における「いつもハンカチを身につけている」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度(昨年度同調査 95.5%)水準を維持する。
- 校内調査における「給食の月目標を守ることができましたか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度(昨年度同調査 96.9%)水準を維持する。

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の72%以上にする。
- 「ゆとりの日」を週1回以上設定する。年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を80%以上にする。学校閉庁日については、夏季・冬季休業中に3日以上設定する。
- 大阪市小学校学力経年調査における「学校図書館やその蔵書を活用した授業を計画的に行いましたか」に対して、「週に1回程度、または、それ以上行った」又は「月に数回程度行った」と回答する学級担任の割合を前年度(昨年度同調査 100%)水準を維持する。

大阪市立東井高野小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【安全・安心な教育の推進】 ○大阪市小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しい」に対して肯定的に回答する児童の割合 100%をめざす。 ○大阪市小学校学力経年調査における「自分には良いところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度(昨年度同調査 87.3%)以上にする。	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向番号1、安全・安心な教育環境の実現】 職員全体でいじめの早期発見や、不登校傾向にある児童についての共通理解に努める。また、関係児童への細やかな対応・配慮を行えるよう、学校全体で指導・支援体制を整える。 (いじめへの対応)(不登校への対応) 指標 「心の天気」を毎日実施し、「相談機能」を含めて複数の職員で確認し、児童の心の変化に素早く対応できるようにする。また、これらの情報を「アセス調査の結果」などとともに共有し、個に応じた指導・支援方法の手立てを組織として考え、共通理解する生活指導報告会を、毎学期複数回実施する。	B
取組内容②【基本的な方向番号1、安全・安心な教育環境の実現】 災害など緊急事態において、自らの命を守るための避難行動をとることができるよう、目的意識をもった防災教育を推進し、防災への意識を高める。 (安全教育の推進) 指標 火災・防犯・地震・津波を想定した避難訓練を年間3回、引き渡し訓練を1回実施する。各訓練の前後には、自分たちができることについて考える時間を設ける。また、各教科等で、災害や防災に関係する学習を行う際には、各クラスで児童の発達段階(学年)に応じて、自助、共助、公助についての話をする。	B
取組内容③【基本的な方向番号1、安全・安心な教育環境の実現】 児童会行事の充実、児童のたてわり(異学年交流)活動の充実を図り、児童にとって楽しい学校生活ができるようにする。 (不登校への対応) 指標 ・児童会を中心に、児童会行事やたて割り活動の際に、がんばったことや良いことを褒めて自己肯定感を高めるフィードバックを行う。 ・全学年が関わるイベントを3つ以上行う。また、全学年が学年間の交流を1回以上行う。	B
取組内容④【基本的な方向番号2、豊かな心の育成】 校外学習やゲストティーチャー招聘、遠足・社会見学などの学習機会を充実させる。また、学校行事の全国的な傾向を把握し、新しい知見を教育活動に反映できるようにする。これらの取り組みを通して、児童が将来の夢や目標、自己有用感を持つとともに自他を尊重する心を育む。 (キャリア教育の充実) 指標 校長経営戦略予算も活用し、校外学習やゲストティーチャー招聘、遠足・社会見学などの学習機会を、全学年で年間複数回実施する。また、学期ごとや行事ごとにキャリアパスポートや振り返りシートを活用し、自己の成長を振り返る機会とする。	B
取組内容⑤【基本的な方向番号2、豊かな心の育成】 教育活動全体を通じて、発達段階に応じた系統的な人権教育を実践し、児童が社会の様々な人権課題に対する正しい理解と認識を持てるようにする。 (人権を尊重する教育の推進) 指標 人権教育年間指導計画に基づいた取り組みを学期に1回以上行い、年度末に成果と課題を共有する。	B
取組内容⑥【基本的な方向番号2、豊かな心の育成】 教育活動全体を通じて、全児童の参加感を高めることで、自他の尊重を育み、「共に学び、共に育ち、共に生きる教育」を推進する。 (インクルーシブ教育の推進) 指標 校内調査における「自分には良いところがあると思いますか」に対する肯定的に回答する児童の割合 100%を目指す。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

年度目標

- 大阪市小学校学力経年調査未実施（１２月実施予定）
- 大阪市小学校学力経年調査未実施（１２月実施予定）

- 取組内容①「心の天気」の取り組みは、複数の職員での確認体制を含め定着してきている。また、生活指導報告会は、複数回実施できた。
- 取組内容②年間計画通りに訓練を実施できている。各訓練の前後の指導も定着してきたが、普段から児童の防災意識をより高める取組をすすめる必要がある。
- 取組内容③児童のたてわり（異学年交流）活動を集会の時間に毎回行ったり、２学年ごとに休み時間に遊ぶ時間を作ったり、あいさつ運動を行ったりした。児童会の児童のフィードバックはその都度行っているが、全学年の児童のフィードバックはあまり行えていない。
- 取組内容④年度当初に計画していた校外学習や出前授業は計画通りに実施できている。また、必要に応じてゲストティーチャーを招聘した授業や体験活動も実施した。運動会では、キャリアパスポートを活用し、めあてをもって取り組むことができた。
- 取組内容⑤人権年間指導計画をもとに、各学年で取り組むことができている。１学期には、児童一人ひとりが人権標語を作る取り組みをした。
- 取組内容⑥校内調査における「自分には良いところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は８７．８％であった。学校全体での児童会活動や、各学級でのグループ活動など、参加感を感じることができる取り組みを行っている。また、各学級で、いいところ見つけや全員スピーチなどにも取り組んでいる。

今後の改善点

年度目標

- 大阪市小学校学力経年調査の結果をもとに分析を行い、改善点を整理し、教育活動に反映させる。
- 大阪市小学校学力経年調査の結果をもとに分析を行い、改善点を整理し、教育活動に反映させる。

- 取組内容①「心の天気」については、児童の入力状況に個人差がみられるため、声かけを継続して行う必要がある。生活指導報告会などを通して共有する機会を増やし、個に応じた指導や支援を多角的に考えていく。
- 取組内容②訓練のマナー化を防ぐために、補助資料の活用などを通して改善していく。また、訓練の事前事後指導をしっかりと行っていくことで、自助・共助・公助の視点をもてるようにする。
- 取組内容③児童会行事やたてわり活動の際に、がんばったことや良いことを称賛・共有するなど、全学年でフィードバックする機会を確保する。また、今後も全学年が関わるイベントや、学年間の交流を行う機会を作っていく。
- 取組内容④今後も、年間計画に則り、校外学習や出前授業を実施していく。学期や活動ごとにふり返りの場面を設定し、児童が自己の成長を把握する機会とする
- 取組内容⑤今後も、計画されている人権教育や体験活動などを実施し、共生教育の充実を図る。年度末の成果と課題の共有に向けても取り組んでいく。
- 取組内容⑥授業の中での子ども同士の交流などを通して、個に応じた手立てを工夫し、参加感を感じることができるようにしていく。また、自己肯定感が高まるような取り組みを工夫していく。

大阪市立東井高野小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【未来を切り拓く学力・体力の向上】 ○校内調査における「授業の内容はよく分かりますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合100%をめざす。 ○大阪市小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を前年度(昨年度同調査59.6%)以上にする。 ○大阪市小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を前年度(昨年度同調査73.9%)以上にする。 ○校内調査における「正しく手洗いをしている」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度(昨年度同調査98.5%)水準を維持する。 ○校内調査における「いつもハンカチを身につけている」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度(昨年度同調査95.5%)水準を維持する。 ○校内調査における「給食の月目標を守ることができましたか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度(昨年度同調査96.9%)水準を維持する。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向番号4、誰一人取り残さない学力の向上】 校内研究において、昨年度までの研究を活かした「主体的・対話的で深い学び」に焦点をあて、授業の充実と改善を図る。 (言語活動・理数教育の充実) (「主体的・対話的で深い学び」の推進) 指標 研究主題『共に「わかる」・「できる」・「楽しい」を実感できる授業づくり』に迫るために、各部で計画を立て、教職員一人ひとりが実践、検証、修正を行い、取り組んでいく。月1回以上部会を開き、進捗状況を確認して研究を進めていく。	B
取組内容②【基本的な方向番号4、誰一人取り残さない学力の向上】 さまざまな学習の中で、「自分の思い」や「自分の考え」を伝え合うための対話や交流を取り入れ、児童の参加感を大切に授業づくりを計画的に取り組む。 (「主体的・対話的で深い学び」の推進) 指標 言語力を活かした対話と交流をするために、各教科の年間指導計画をもとに、学習したことを活用できる場を設定し、年間に1回以上取り組む。	B
取組内容③【基本的な方向番号4、誰一人取り残さない学力の向上】 国語科のモジュール学習で視写に取り組み、書く力へとつながる基礎を培う。 (言語活動・理数教育の充実) 指標 国語科のモジュール学習を週1回実施する。また、決められた時間で視写ができる量を増やす。	B
取組内容④【基本的な方向番号4、誰一人取り残さない学力の向上】 授業で学習したことを振り返ったり深めたりするために、引き続きプラスノートを活用し、家庭学習の習慣へとつなげる。 (「主体的・対話的で深い学び」の推進) 指標 校内調査における「学校で出された宿題以外に自分で計画を立てて学習(予習・復習など)をしていますか。」に対して、肯定的に回答する児童を前年度(昨年度同調査92.3%)水準を維持する。	B
取組内容⑤【基本的な方向番号5、健やかな体の育成】 運動に親しむ機会を設けたり、用具の充実を図ったりして、進んで体力づくりに取り組めるようにする。 (体力・運動能力向上のための取組の推進) 指標 運動委員会と代表委員会が連携して、学期に1回体を動かす活動を計画し、実施する。また、遊びの紹介をすることによって遊びのレパートリーを増やし、外遊びを充実させる。	B
取組内容⑥【基本的な方向番号5、健やかな体の育成】 手洗いや、ハンカチを身につける習慣がつくよう強調週間を設定し、健康保持に対する意識を高める。 (健康教育・食育の推進) 指標 保健美化委員会が中心となり活動する強調週間を年複数回実施することで、健康保持に対する意識を高める。	B
取組内容⑦【基本的な方向番号5、健やかな体の育成】 朝ごはんの大切さを知り、朝ごはんを食べると生活リズムが整うことや、一日の活動への充実につながることを理解する。 (健康教育・食育の推進) 指標 朝ごはんの大切さについての健康教育、食に関する指導を年間1回以上する。さらに、通信を年間1回以上発行し家庭への啓発を行う。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

年度目標

- 校内調査における「授業の内容はよく分かりますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は、91.4%である。
- 大阪市小学校学力経年調査未実施（12月実施予定）
- 大阪市小学校学力経年調査未実施（12月実施予定）
- 校内調査における「正しく手洗いをしている」に対して、肯定的に回答する児童の割合は92.3%で前年度同調査と同等水準である。
- 校内調査における「いつもハンカチを身につけている」に対して、肯定的に回答する児童の割合は80.1%であり、前年度同調査を下回っている。
- 校内調査における「給食の月目標を守ることができた」に対して、肯定的に回答する児童の割合は94.3%であり、目標としている水準を維持することができている。
- 取組内容①研究テーマ・目標に向けて、各学年部での研究を計画通り行っている。研究部会を月1回程度開き、進捗状況についての話し合いや部内研修を行っている。また、研究中間発表会を実施し、進捗状況を教職員全体でも交流し、取り組みについての共有を図ることができている。
- 取組内容②言語力を活かした対話と交流をするために、各学級でグループ活動や全体交流を積極的に取り入れている。また、発表や掲示物を通しての交流など、学習したことを活用する場を設けるようにしている。
- 取組内容③モジュール学習で取り組んでいる視写では、めあてや進め方を共通理解した上で始め、決められた時間で丁寧に書くことを通して、書く力の育成に努めている。
- 取組内容④校内調査における「学校で出された宿題以外に自分で計画を立てて学習（予習・復習など）をしていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は76.8%であり、目標の92.3%を下回っている。プラスノート（自主学習）での学習は計画通り行えている。
- 取組内容⑤遊びの紹介をしたことによって遊びのレパートリーが増え、外遊びが充実した。今後も運動委員会を中心に体力づくりの取り組みを行っていく。
- 取組内容⑥保健美化委員会が中心となって学期に1回強調週間を実施することができており、児童の健康保持に対する意識は高まっている。しかし、普段の児童の様子や校内アンケート結果から、正しい手洗いについては定着しているが、ハンカチを身につけることについてはさらに意識づけていく必要がある。
- 取組内容⑦朝ごはんの大切さについて健康教育、食に関する指導を10月までに11クラス中4クラスで行うことができている。通信については、計画通り発行できている。

今後の改善点

年度目標

- 今後も目標の100%に近づくことができるよう、取組を継続する。
- 大阪市小学校学力経年調査の結果をもとに分析を行い、改善点を整理し、教育活動に反映させる。
- 大阪市小学校学力経年調査の結果をもとに分析を行い、改善点を整理し、教育活動に反映させる。
- 【取組内容⑥】参照
- 【取組内容⑥】参照
- 今後も継続指導する。
- 取組内容①有意義な研修となるよう、今後も、部内研修や公開授業を計画通り行っていく。年度末には、研究全体発表会を行い、一年間の取り組みを共有できるようにする。
- 取組内容②言語力を活かした対話と交流については、今後も様々な教科で活用する場をつくっていけるようにする。
- 取組内容③書く力のさらなる向上のために、視写では、語のまとまりを意識して、覚えて書くことができるよう指導していく。
- 取組内容④プラスノートでの学習の進め方を交流するなどし、目標をもって意欲的に取り組めるよう指導していく。週1回以上行うことを継続し、習慣化へとつなげる。また、プラスノートでの学習が予習復習へとつながることを児童へ意識づけていく。
- 取組内容⑤運動委員会で引き続き体を動かす活動を実施し、進んで体力づくりに取り組めるようにする。また、用具の充実も合わせて進めていく。
- 取組内容⑥ハンカチチェックデーや強調週間を活用し、ハンカチをいつも身につけることを意識させる。
- 取組内容⑦子どもへ向けての啓発はできているが、家庭への啓発がまだ十分にできていないので、学級懇談会や個人懇談会の機会を通して家庭への朝ごはんの大切さを伝えていく。

大阪市立東井高野小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【学びを支える教育環境の充実】 ○授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の72%以上にする。 ○「ゆとりの日」を週1回以上設定する。年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を80%以上にする。学校閉庁日については、夏季・冬季休業中に3日以上設定する。 ○大阪市小学校学力経年調査における「学校図書館やその蔵書を活用した授業を計画的に行いましたか」に対して、「週に1回程度、または、それ以上行った」又は「月に数回程度行った」と回答する学級担任の割合を前年度(昨年度同調査100%)水準で維持する。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向番号6、教育D X(デジタルフォーメーション)の推進】 系統的なプログラミング学習に取り組めるように、指導案の充実と見直しを図る。また、タイピングや電子新聞など、学習者用端末を活用する取り組みの充実を図る。 (ICTを活用した教育の推進)	B
指標 各学年、年間に1つ以上のプログラミング学習や学習者用端末を活用した取り組みを行う。	
取組内容②【基本的な方向番号7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 校務分掌の見直しによる校務の整理や、配布物を始めとした日常業務の精選などを通して、勤務時間内に業務を完遂できるようにする。(働き方改革の推進)(教員の資質向上・人材の確保)	B
指標 年次有給休暇を8割以上の教職員が10日以上取得したり、夏季・冬季休業日の閉庁日を3日以上設定したりすることを通して、働きやすい業務環境を整える。	
取組内容③【基本的な方向番号8、生涯学習の支援】 図書館補助員や図書ボランティアと連携し、学校図書館が落ち着いて読書を行うことができる安らぎの場、そして、開かれた学びの場となるよう環境を整える。また、読書週間等にも一緒に取り組み、内容の充実を図る。さらに読書カードを活用し、児童の読書活動の交流を行う。 (「大阪市子ども読書活動推進計画」に基づいた取組)(学校図書館の活性化)	B
指標 各学期ごとの読書週間について、図書館補助員や図書ボランティアと計画を共有し、一緒に取り組み、児童の読書への意欲を高める。	
取組内容④【基本的な方向番号8、生涯学習の支援】 学習内容に応じて、学校図書館の本を活用し、調べ学習に取り組む。必要に応じて、市立図書館と連携し、団体貸出などを利用する。 (「大阪市子ども読書活動推進計画」に基づいた取組)(学校図書館の活性化)	B
指標 学校図書館やその蔵書を活用した授業を年1回以上行う。また、読書タイムなど、毎週1回以上、本に親しむ時間をつくる。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

年度目標

- 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の67.7%（令和7年9月まで）であり、目標を上回っている。
- 【取組内容②】参照
- 大阪市小学校学力経年調査未実施（12月実施予定）

取組内容①タイピングの練習をする時間を設けたり、電子新聞を読んだりするなど、学習者用端末を活用する取り組みを行っている。系統的なプログラミング学習については、外部講師と連携して計画中である。プログラミング学習で使用するロボット教材も導入することができた。

取組内容②校務の整理と日常業務の精選を図ることで、教職員の時間外勤務時間が昨年度より短くなっている。また、教職員に計画的に休暇等を取得するように声かけするとともに、休暇を取った教職員の支援体制を組織的に行うことで、有給休暇等を取得しやすい環境を整えている。夏季休業日の閉庁日については、10日分設定し、実施することができた。

取組内容③読書週間を計画通り実施できている。また、図書館ボランティアや地域の読み聞かせ隊とも連携することで児童が本に触れる機会を確保している。また、児童の読書への意欲を高めるために、学年に応じた読書カードを活用して、読んだ本を記録していくようにしている。

取組内容④学習内容に応じて学校図書館の本を活用し、調べ学習などに取り組むことができている。また、学級用貸出ボックスを活用し、学級で読む本を充実させることができるようにしている。

今後の改善点

年度目標

- 今後も継続して活用していく。
- 【取組内容②】参照
- 大阪市小学校学力経年調査の結果をもとに分析を行い、改善点を整理し、教育活動に反映させる。

取組内容①学年の実態に応じた系統的なプログラミング学習に取り組めるように、外部講師と連携し計画していく。また、学習の進め方やロボット教材の使い方など教職員同士での共有を図っていく。

取組内容②教職員の教育活動への日々の取り組みの中で、業務量と勤務時間にはばらつきがあるので、引き続き校務の整理と日常業務の精選をすすめ、さらに教職員一人ひとりが休暇等を取得しやすい体制を整える必要がある。また、2学期開始時点より教職員の指導体制に改善があったが、引き続き指導体制に人的な不足がない状態となるよう、働きかけを継続していく。

取組内容③今後も読書に親しむことができるような読書週間の取り組みを実施していく。図書館補助員や図書ボランティアとも一緒に取り組めるよう、工夫していく。図書館だよりなどを通して「大阪市子ども読書活動推進計画」の取り組みの周知を図っていく。また、読書カードを活用して、児童の読書活動の交流ができるように取り組んでいく。

取組内容④今後も学校図書館や市立図書館の蔵書を活用した授業を行っていく。